

令和5年度 第7回 旭川市行財政改革推進委員会 会議録(要旨)

1 日時 令和5年10月13日(金) 18:30~20:20

2 場所 旭川市総合庁舎第2応接室

3 出席者 長谷川(芳)会長, 佐々木委員, 杉山委員, 曾根委員, 長谷川(愛)委員, 靱岡委員
(事務局)浅利行財政改革推進部長
行財政改革推進部 行政改革課 梶山課長, 及川課長補佐, 水沢
総合政策部 財政課 小澤課長, 万年課長補佐

4 公開・非公開の別 公開

5 会議資料(前回会議配付資料)

次第

資料1 諮問書(写し)

資料2 旭川市行財政改革推進プログラムについて

資料3 旭川市行財政改革推進プログラム2020

資料4 旭川市行財政改革推進プログラム2020の進行状況

資料5 本市を取り巻く現状と課題

資料6 次期旭川市行財政改革推進プログラムの視点

6 議事要旨

(1) 開会

(2) 旭川市行財政改革推進プログラム2020の改訂について

事務局から前回説明内容について説明があり, 意見交換。概要は次のとおり。

【会長】

新たなプログラムの方向性, 取組内容についての意見交換を始めたいが, 幅広い議論となる。先ずは歳入確保や負担の適正化について皆さんの御意見をいただきたい。

【委員】

企業誘致をすることで固定資産税増と, 雇用確保で将来的な税収増につながる。千歳・札幌圏への大企業誘致の事例があったが, 旭川圏として旭川空港を上手く活用するなど独自性を出した企業誘致により, 将来的な税収増につながる流れになるだろう。人口減少の歯止めをかける意味合いもある。

【会長】

企業誘致で人口減少の歯止めかけるという意味では, おっしゃるとおりかと思う。仕事がないから旭川から人が出ていく。歳入確保という意味では, 働く人が増えれば税収も増え, 人口減少を食い止めることで事業所税廃止もなくなる。

【委員】

千歳に誘致されたラピダスにおける苫小牧港のように企業誘致の核となる港は旭川にないが、留萌港を活用して札幌圏でのデータセンターと同様のことができるのではないかと思う。働く人が増えれば住民税も増える。

【委員】

企業といっても中小企業、大企業、ベンチャーなど様々ある。旭川は大企業が少ないが、全国的には企業城下町というのもある。誘致する企業の大きさ、種別、新しさについて戦略を練った方が良いと思った。

【会長】

企業誘致の話題が出たが、他に歳入確保について意見はないか。

【委員】

施設の老朽化が進んでいる中で、減らすものは減らして、再利用できる施設があるなら再利用すべき。例えば東神楽では廃校を活用してコミュニティスペースをつくっている。使わなくなった施設を企業に活用してもらって導線づくりをしてはどうか。

【会長】

歳出抑制にもからむ意見だが、老朽化した建物を維持していくのか、処分という意味では以前の議論の中で売却という意見も出ていた。様々な選択肢を模索しつつ、歳入確保・歳出削減につながる取り組みを広くやっていただければ。

【委員】

ネットフリックスによるドラマ「First Love」は旭川でロケが行われ、非常に人気が高かったが、ロケの舞台となったロータリー付近にドラマをイメージしたカフェなど観光事業に活用するようなものができるか。

【委員】

「First Love」は、旭川観光コンベンション協会発行のパンフレットが手に入らなくてネットで転売されるほど人気だったようだ。ロータリーは旭川を象徴するものの一つ。美瑛は韓国人に人気で韓国人観光客が多い。メディアで取り上げられたものとリンクさせることで、地元の人も愛してくれるだろうし、外からファンも来るだろう。

【委員】

東京には「推し活」をしている人を対象に、キャラや世界観などとコラボした観光客に人気のカフェが沢山ある。せっかく旭川に人気のドラマがあるのだから、活用してはどうか。個人的に SNS でロータリーの動画を紹介したら反応が大きく、それで観光に来てくれた人もいる。一般に知られていない情報が SNS を介して個人的なつながりの中で広がっていくことも観光振興となる。ドラマをイメージしたキャッチコピーをつけて、観光商品を作ってくれそうな企業を誘致したり、家具とコラボしたりしてはどうか。

【委員】

未来を考えると若者の流出を避けることが非常に大事。若者が意見を言える場面は意外と少ない。せっかく大学があるので、若い人がプロジェクトや経営に関わってその対価に賃金が発生すれば社会経験もできるし、収入も入る。プロジェクトを実際の仕事にできれば若者の流出も止められるかもしれない。若い人が輝けるプロジェクトを立ち上げるのは楽しいだろう。楽しいところに収益が集まる。旭川はエンターテインメント性が足りないと感じる。

【委員】

先日催された、バレエの公演に多くの高齢者が来ていた。知的好奇心を刺激する文化イベントなど高齢者が興味を持てるものがあれば、そこに出かけて、お茶をするなど消費につながる。市外に出た若い人は、SNSなどで旭川の魅力を発信する口コミ係や、ふるさと納税をしてくれれば、必ずしも旭川に居住していなくても良いのではないかと思った。

【委員】

大学生は大きなことで活躍したいという夢を持っており、そのため都会に行きたい人が多いが、旭川でもできることは多い。大学生でも大きなイベントができるが、若者の発案に大人の力が加わればもっと良くなる。大人が大きなイベントをする際に、若者と一緒にやると若者は変わるのではないかと。若者も「旭川でも、自分たちでも、こういうことができるんだ」となるし、旭川について知ることができる。

【会長】

人材育成・業務効率化・組織についてはどうか。行政評価の議論の中では、残業時間が多いものについて勤務時間の柔軟な変更やアウトソーシングを実施するという話題もあった。新庁舎移転に伴うシステム更新などでの業務効率化が進む見込みはあるのか。

【事務局】

新庁舎では窓口改革ということで、総合窓口として1～2階に手続き件数の多いものを集中させ、市民の利便性向上を図る。業務効率化に向けた改善としては、システムの見直しやアプリ作成、RPA といってパソコン上で実施する処理を自動化するツールなどの導入を徐々に進めているところ。システム標準化も進めている。

【委員】

組織改革や業務効率化、働きがい改革には、AI 活用などで効率化できるものは多くあると思うが、単なる DX だけではなく職員の意識として、どれが大事な仕事で逆にスリム化できるものは何かの判断をしっかりとできるようにしていかなければならない。それが残業代の削減、働きがい改革につながる。

札幌では GX グリーントランスフォーメーションを使って経済産業省や金融庁、北海道も連携して取組を進めている。旭川でも、こうした動きを取り入れて何かできるのではないかとと思う。

【委員】

人材育成と組織改革にからむことだが、現時点で市役所の組織は複雑で市民にとって分かりにくいので、まとめることはできないか。また、組織を統合することで組織内の情報共有が円滑になり、人材育成にもつながるのではないかと。人口も減るので組織編制をスリム化できないものか。

【事務局】

組織は昔に比べて削減しているが、市民生活のゆりかごから墓場まで一体的に対応しており、業務が多岐にわたる。新庁舎ではどの部署が担当するかにかかわらず、主な手続きを総合窓口を集約する。コンシェルジュを配置し適切に案内することで、分かりやすくなるよう進めている。また職員はジョブローテーションで見識を広げるため人事異動をする一方、業務を継続させなければならない。今後 AI を用いたマニュアル作成も検討しており、まずは職員向けの AI チャットボットを活用することを始めている。

【委員】

アプリで目的地までの経路がすぐ分かるように、子どものことを相談したいとなった時に、どの部署に何を持っていけば良いのか分かるようになっていくと分かりやすいが、新庁舎では何か考えられているのか。

【事務局】

市役所に行く前であれば HP 上の AI チャットボットで確認できる。市の HP には引越手続きのナビゲーションシステムがあり、質問に答えていくことで、どこに何を持っていけば良いかが一覧で示される。今後は、市役所に行ったらデジタルサイネージの AI で分かるようにしていきたい。

【委員】

長期的に見たら、そうした DX の取組を発展させていくことが近道ではないかと感じる。人間が過ごしやすくなるようにできるのが良い。

【委員】

職員がいかに労力をかけずに業務を進めるかという発想でやれば効率化が進むのではないか。人事異動があっても、引継ぎのとおりにはやらなければならない、という発想ではなく、自分が利用する側だったらこんなものが欲しいというような意見を取り入れる職場内の風通しの良さが必要。

税務署では電子申告が進んでおり、書類を送らないようにしているようだが、市でもそうしたことに取り組んでいるのか。

【事務局】

基本的に書面を郵送している。今後オンライン申請が進んだ場合に、これまで窓口で手渡しできていたものを郵送する必要が出るかもしれない。

【委員】

郵送作業はデータを渡して業者にやらせてもらっても良いだろう。税の申告書は封も開けずに捨てている人が多くいる。電子申告するから紙は必要ない。発送料も無駄だし、ごみを捨てる側も手間。税務署のやり方をならって削減しても良いと思う。

【委員】

健康診断のお知らせも、まめに来るが、多いと感じる。

【事務局】

悩ましいのは、市民の一人ひとりに確実に知らせる手段として現状では郵送以外にないこと。一般的な周知ではホームページ、広報誌や場合によってはフリーペーパー、テレビやラジオのCMなどもあるが、個人一人ひとりに間違いなく伝わったか分からない。健康診断は受診率によって補助金額も変わり、病気を見つける目的で実施していることもあり、一般的周知では足りない。民間ではメールでの周知を取り入れている事例もあるが。

【委員】

メールだと迷惑メールに埋もれて見落とししたり、使われなくなったりすることもあり、確実に手元に行ったという情報を確認する手段としては弱い。

【委員】

民間の場合は、顧客の同意に基づき電子媒体でやりとりしている事例がある。市の業務では、なじまないものが多いだろう。

【委員】

マイナポータルには「やりとり履歴」がある。このように旭川市でも独自に登録番号を設定し、申請履歴などが分かるようなものでセキュリティも守られる仕組みがあれば良いのでは。投資は必要かもしれないが、将来を考えると投資をしても良いのではないか。

【会長】

働きがい改革についての意見はどうか。

【事務局】

働きがいのある職場には良い人材が集まる。若者の意見を採用することで若い職員が成長したり、コア業務に専念できるようにするなど、職場として魅力を上げて良い人材を確保し、地元の就職の受け皿とならなければならないと考えている。給与水準は地元企業への影響も考慮する必要がある。

【委員】

民間と市役所の賃金ギャップについての声を聞くことがあるが、それによって市民が市役所を応援できないという気持ちになるのではなく、「皆が職員」という感覚になれるシステムはできないものか。旭川市民が一体化して力を合わせ全市上げたチームになるため、皆が市の仕事をしているなどの道筋があると良い。東川町には、時間のある町民が有償で町の仕事を請け負う仕組みがある。お年寄りも自分に役割があると精神的に前向きになり、病気予防にもつながる。

【会長】

公務員の給与水準を下げると良い人材が集まらなくなる。国家公務員のキャリア志望者が減っているというのは民間が良いからだろう。行政の仕事への市民参加事業は、事業実施による職員の業務増とのバランスを見ながら取り組んでも良いだろう。

【事務局】

実際、建築、土木職員は民間の水準が高いため採用が非常に難しくなっている。やりがい求めて上級官庁に就職する人もいる。

【委員】

働きがい改革と人材育成について、市と大学がコラボレーションした仕組みづくりはできないか。市内の複数大学が連携して、学生たちが旭川のためにがんばりたいと思うようなカリキュラムを作り、志を持って旭川市のために働きたい学生を、大学と市とが連携して育ててはどうか。現状で市と大学生の関わりはイベントが多いが、もっと仕事の側面に入れるものを作れば学生のためになる。市としても人材発掘ができ、学生の就職が有利になれば大学の魅力も上がり、市内で進学したい若者が増えるのではないか。また、一度そういう経験をすれば市外に出た若者もいつか戻ってくるかもしれない。時間はかかるだろうが、子どもたちの未来を育成できるような方法を、大学と市、企業と市で手を取り合って前向きに進めてもらえれば良いと思う。

【委員】

学校教育、特に食育に力を入れて欲しい。給食に地元の美味しく健康に配慮された食材を使って充実させ、広く周知すれば、そういうことを大事に考える人たちが移住してくるのではないか。

また、食を通じて活躍できる若者を育てることができ、食の魅力により一度外に出て行って色々なことを吸収した若者も戻ってきたり、ふるさと納税につながるのではないか。

【委員】

旭川の食には、海産物のように突出して目立つものがないが、例えば旭川のコメ以外は食べられなくなるくらいのクオリティのものが給食で提供されていたら、農業分野にも貢献できる。質を上げることで金銭的に難しいところが出てくるかもしれないが。学校給食は義務的に食べているものなので、そこに郷土への愛着がわくような喜びがあると良い。旭川の食べ物は美味しい。自然の豊かさを生かしていけたら良い。

【会長】

多少受益者負担が増えても、選択と集中ということで、皆が満足してお金を出す施策であれば考えていただく必要がある。他に意見はないか。

【委員】

企業誘致についてだが、大学周辺への企業誘致によって大学周辺が活性化されれば、もっと若者にとっての魅力が高まるのではないか。

【会長】

現庁舎跡地の活用についても、お金が生まれる使い方を考えてほしい。

以上